



アルミ缶とスチール缶の識別マーク



← エコマーク
このマークは、環境保
全型の商品についてい
ます。

金属（空き缶）

古紙を種類別にわけると必要があるのです。
アルミ缶は東京、スチール缶は八戸市の製錬所へ運ばれます。どちらも溶かして再び製品化されます。

注目したいのは再生に必要なエネルギーです。スチールは鉄鋼石からつくる場合の三五%、アルミはボーキサイトからつくる場合のわずか三%のエネルギーで済んでしまいます。

今は、アルミとスチールの識別マークが付いていますから、それぞれ分けて出してください。

空きビン

ガラスビンには、何度も繰り返し使えるリターナブルビンと、細かく砕いたもの（カレット）にして再利用できるワンウェイビンがあります。

リターナブルビンは消毒・洗

浄して使えるもので、現在市が収集している三種のビンはこれです。一方のワンウェイビンはカレットを溶かして製品をつくるもの。同じ色のカレットを使わなければなりませんから、当然色別の分別が必要になるわけです。

下の図は市で分別収集したごみの流れを示しています。

分別が軌道に乗れば、焼却されるごみはだいぶ減らせそうです。また、市ではごみ処理で得られる副産物の利用構想も立案中です。例えば焼却時の余熱を温水プールや温室園芸に利用する（点線囲み部分）、焼却後の燃えがらや灰を路盤材や舗道ブロック材などに活用する、生ごみを単一収集して堆肥施設を建設するなどです。すぐ実現はできませんが、分別収集・リサイクルが着実に進めば、そう遠い将来のことではありません。

すぐにやれそうです

- ごみを減らすために、あなたも始めてみませんか
- ☆使い捨て商品をなるべく買わない。
- ☆すぐ捨てずに、修理や部品交換をして使う。
- ☆暮らしのなかでできるだけ再生品を取り入れる。
- ☆まだ使えるけれどいらなくなったものは、バザーに出したり人に譲ったりする。
- ☆デパートやスーパーなどで、過剰包装は断る。
- ☆集団回収などの活動に積極的に参加する。

分別されたごみの処理

